

校長室だより

第20号（卒業式号）
平成31年3月15日



MOTTAI NAI（もったいない）

卒業する6年生に贈る

～感謝の心を持とう～

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！

卒業という人生の大きな節目、ここまで成長するまでには、皆さんの父母や家族、先生や友だち、いろんな人の汗や思いがあったと思います。そのことに、しっかり感謝の念を持って卒業してほしいと思います。そこで、校長先生が特別な思いを持っている、2人の先生、1人の友人、父母への思いを紹介します。

祝卒業



本当に大切なことは、 目には見えない！

校長先生は、小さい頃、わがままな子どもでした。例えば、友だちが自転車を買ってもらった話を聞くと、決まって母親にせがみました。「母ちゃん、自転車こうて！」すると、母も「何で？」と聞いてきました。「だって、みんな自転車持ってるもん」そして、母は、ただみかけて「みんなって、誰？」と突っ込んできました。「えっと、〇〇くんとか△△くんとか□□くんとか…」と、□□くんもってふくれっ面をするしかありませんでした。そんな私に、母は容赦なく、次の言葉でいつも迫ってきました。「学校で必要なもんなら借金してでも買ってあげるけど、家（うち）には、今、そんなもの買う余裕はない。そんなことでふくれるんやったら、〇〇くんでも△△さんでも、□□さんでもいいから、その家の子になっておいで！」私の完敗で、いつも終わりました。

そして、半年が過ぎて、1年が過ぎて、買ってもらえることもありました。その時の喜びは、大きかった。

自転車も、忘れた頃に、「3つ上のお姉ちゃんと、一緒に使いなさい」ということで24インチの自転車を買ってもらいました。1年生の私には、大きすぎましたが、とてもうれしくて、日曜日ごとに古い下着で自転車を磨きました。

当時の校長先生は、人が持っている物にばかり目がいき、何でも買ってくれるお母さんやお父さんがいいなと思っていました。自転車・テレビ・おもちゃ・小遣い、目に見える物ばかりをほしがっていました。

そんな私が、どういうことか、教員をめざして大学で勉強することになりました。教育史の講義で、今から250年以上も前に書かれたルソーの『エミール』という本に出会いました。その本にこん

な一節がありました。「…子どもをだめにしようと思ったら、子どもが欲しいものを、欲しい時に、欲しいだけ与えればよい…」確か、こんな事が書かれてありました。

その時、小さい頃繰り返し言われた、母の言葉を思い出しました。

私の母は、大正13年生まれ、4才で父親を亡くした貧しい農家の出身で、尋常小学校しか出ていません。父親代わりの兄は、戦争で亡くなりました。だから、母は父親の記憶が一切ありません。父代わりの兄の話をする時は、本当に悲しそうでした。母の人生は、私が体験した苦労とは、比べることができない苦労だったと思います。大学どころか、小学校しか出ていません。そんな母が、どこで『エミール』を勉強したのでしょうか？きっと、母は、一生懸命生きる中で、必死になって子育てする中で、本当に大切なもの、大事なことをつかんできたのだと思います。

保健室の先生から、小学校6年間の伸びた身長と、同じ長さの青いリボンでくくった健康の記録をもらいましたね。君たちは、青いリボンで分かる6年間の成長に、改めてビックリしたと思います。しかし、その成長の裏には、君たちの知らないところで、見えないところで、君たちの成長に、気をもんだり心配したりしたお母さんやお父さんの姿があったと思います。雨の日も寒い日も、うだるような暑さの中でも、我が子の成長のため、汗を流し働いてくれたお父さんやお母さんの働く姿があったと思います。

目に見える物やお金に心を奪われるのではなく、苦労や努力を重ね、心の目で物事や人の思いを考え、感じることでできる人になって下さい。本当に大切なことは目には見えません。

（昨年度の卒業式式辞をもとにしました）

誕生日、おんぶのぬくもり

小学校1年生と2年生は、N先生という、当時40歳ぐらいの女性の先生に担任をしてもらいました。当時（今もかな？）、校長先生は非常に落ち着きのない子どもでした。この先生は、“優しくて厳しい”先生でした



が、大好きな先生でした。授業中、発表するのをあててほしくて、思わず「かあちゃん！あてて！」と叫んで恥ずかしい思いをしたこともありました。それぐらい大好きな先生でした。

その先生は、文字が書けるようになった2年生から、クラスの子が誕生日を迎えると、みんなにお手紙を書かせて、誕生日の子に渡してくれました。校長先生の誕生日は12月、先にももらった友だちがとてもうらやましかったです。ようやく12月の誕生日が来ました。プレゼントのお手紙をもらった後、先生がおんぶをして教室を一周してくれます。とても嬉しかったのと、その時のぬくもりを今も覚えています。家族以外から、人間を信頼する基礎をつくってくれた先生です。

クラスをリードしてくれた友

校長先生が荒れていた小学校時代、立ち直るきっかけをくれた同級生T。中学校1年生と2年生は別々のクラスだったのですが、中3で一緒のクラスになりました。当時、校長先生の成績では、行きたい高校に行ける成績から遠く離れていました。



しかし、学習も遊びも、何事もクラスを盛り上げリードしてくれた彼のおかげで、クラス中が授業を楽しみ、放課後も自主的に教え合いをしたり、家に帰ってからも勉強に打ち込むようになりました。運動会も文化祭も修学旅行も、楽しい思い出になりました。

校長先生が今の進路（教員）になったのも、彼との出会い、彼がリードしてくれた楽しいクラスがあったからだと思います。

先月、中学校の還暦（60歳）同窓会では会うことが出来ませんでした。2年前に亡くなったと聞きました。時間が出来たら、お線香をあげに訪ねたいと思っています。（合掌）

今の成績では無理！

中3で担任してくれた女性のU先生。この先生は、“厳しくて優しい”先生でした。

中3の4月、個人面談で「橋本君高校どこに行きたいの？」と聞かれ、「〇〇高校」と姉の行った高校を答えました。「今の橋本君の成績では無理！」とハッキリ言われました。先生の一言は、自分の進路に目を覚ますのに充分でした。その一年間、いろんな節目に適切な指摘や助言をしてくれました。中3のあの先生、あの友だち、あのクラスがなければ、今の進路にはついていなかった、いやつけてなかったと思います。

先日、中学校の還暦同窓会にも出席してくれ、感謝の思いを伝えました。



「ありがとう」を伝えよう！

いよいよ卒業する皆さん。皆さん一人ひとりの成長に、お母さんお父さん、おじいちゃんやおばあちゃん、ご家族の愛情や支えがあったと思います。

そして、いろんな先生が、君たちの学習や仲間との関係に誠心誠意関わってくれたと思います。

友達とは、時にはケンカもしたと思いますが、その友達が遠足や運動会、様々な学校行事や修学旅行をかけがえのない思い出にかえてくれたのだと思います。

校長先生も、いろんな人のおかげで今があります。今回は4人の人しか、紹介できませんでしたが、本当にたくさんの人にお世話になりました。卒業式では、5年前に亡くなった父への感謝の思いを紹介させていただきます。

校長先生も、最後の卒業式。3月18日（日）は、仏壇に手を合わせ、天国から見守ってくれている両親に、無事に卒業生を送り出せることに感謝して、卒業式に臨みます。

卒業生の皆さんも、ご家族を始め、お世話になった皆さんに、感謝の言葉を伝え、その思いを持って卒業式に臨んで下さい。

卒業、おめでとうございます！

天美小学校長 橋本巧一